

「本能と信仰と愛。」 創世記4章2～14節

本能は創造の際に神が生物に与えたもので、人間の場合には欲望・欲求として人為的な要素、個性が付きます。食欲、性欲、睡眠欲は動物にあります。人間は財欲や名譽欲などが加わります。本能や欲望は、本来悪いものではありませんが、罪によってゆがんだものに変わります。「肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢は、御父から出るものではなく、世から出るものだからです。」((一コハネ2・16))。

闘争心や支配欲は、人間固有のものと言われています。動物は、生存のために食べるため守るために獣や闘争をしますが、飢えてなければしないようです。人間は、平時でも人を蹴落とし、勝利を得るために戦おうとします。罪の産物でしょう。

現代社会では、性欲が抑制されなくなり、多くの人を惑わし興奮させています。ところが、不倫や性犯罪を起こすと社会的に抹殺します。性的に扇動しながら、誘惑されると破滅させるとは、サタンのたぐみでしよう。本来は、伴侶を得ようと自らを修練させるための欲だったでしょうが、罪によって自らを崩壊させるものになってしまっています。

食欲も際限がなくなり、肥満や糖尿病をもたらしています。愛情欲求が満たされないと食欲が増してくるようです。財欲は止めどもなく排他的に富を集めようとし、経済は株主の利益優先で顧客や労働者の利益を損なうものになってしまいました。経済構造が、社会を破綻させるようになつてきています。また、富や名譽や地位を求めて、犯罪や嘘が横行し、軽薄な人物が権力を握るようになつてしましました。

今や、本能というよりも欲望が人々を麻痺させ、崩壊させています。その結果として、正義や誠実は虚しいものとなり、裁きをする神をないものと主張しているのです。つまり、神がいたらまずいことを知つてゐるのです。「私たちもみな、不従順の子らの中にあつて、かつては自分の肉の欲のままに生き、肉と心の望むことを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。」(エペソ2・3)。

理性や意思の強い人は、信仰がなくても自分を律して欲望に負けないよう暮らします。信仰者と無信仰者の違いは、自分の罪性を自覚しているかどうかです。意思を強調する人が多くおり、親は子どもに頑張つて生きろと説きます。しかし、罪の力は、肉の力は、私たちを拘束して滅びに導いてしまいます。

「肉の思いは神に敵対するからです。それは神の律法に従いません。いや、従うことができないのです。」(ローマ8・7)。

現代社会の特徴は愛しあって生きることに価値を見出していくことです。愛が単なる感情的なもの、本能的なものに留まっているので、平穏で豊かな暮らしができないのです。「御靈によつて歩みなさい。そうすれば、肉の欲望を満たすことは決してありません。」(ガラテヤ5・16) というような御靈によつて歩むことよりも、信仰者でさえ、本能的、感情的に生きてしまつていて、愛し合うことよりも自らの欲望を満たすことに向いてしまつてているのです。

信仰者が誘惑に陥つたり、欲望で生きたりするのは、神の教えをしっかりと理解していないからです。クリスチヤンでも信仰を自分の欲求実現のためとを考えている人が多いのです。マズローは自己実現欲求を一番高度なものと論じましたが、それは人間中心主義(ヒューマニズム)の動機で、滅びに至るものです。

「主はアベルとそのささげ物に目を留められた。しかし、カインとそのささげ物には目を留められなかつた。それでカインは激しく怒り、顔を伏せた。」(4)。自分の信仰行為に神が目を留められないからといって怒るのは、そもそも神への敬虔さがないからです。「アベルもまた、自分の羊の初子の中から、肥えたものを持って來た。」(4)とは、アベルの感謝の気持と敬虔さを現しています。

自分の存在の起源を神として受け留め、自分の働きの産物を神に感謝するべく最上のものを献げることが信仰の現れです。何気なく生きてはいけないのでした。

祈祷会では健全に生きることを語りました。信仰熱心でも、「自分を制し、品位を保ち、慎み深く、信仰と愛と忍耐において健全であり」(1テオス2・2)、「夫を愛し、子どもを愛し、慎み深く、貞潔で、家事に励み、善良で」(同4・5)なければならぬのです。

信仰は、本能で生きる」とをやめ、み言葉に従い、御靈によつて歩むことが必要なのです。「もしあなたが良いことをしているのなら、受け入れられる。しかし、もし良いことをしていなければ、戸口で罪が待ち伏せている。罪はあなたを恋い慕うが、あなたはそれを治めなければならない。」(4・7)

1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛とを持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

2. 真理と祈りと讃美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讃美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそクリスチヤンは成長し、祝福される。

5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えるながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

今週の聖書

創 4:2 彼女はまた、その弟アベルを産んだ。アベルは羊を飼う者となり、カインは大地を耕す者となった。

4:3 しばらく時が過ぎて、カインは大地の実りを【主】へのささげ物として持てて来た。

4:4 アベルもまた、自分の羊の初子の中から、肥えたものを持てて来た。【主】はアベルとそのささげ物に目を留められた。

4:5 しかし、カインとそのささげ物には目を留められなかつた。それでカインは激しく怒り、顔を伏せた。

4:6 【主】はカインに言われた。「なぜ、あなたは怒っているのか。なぜ顔を伏せているのか。」

4:7 もしあなたが良いことをしているのなら、受け入れられる。しかし、もし良いことをしていないのであれば、戸口で罪が待ち伏せている。罪はあなたを恋い慕うが、あなたはそれを治めなければならない。」

4:8 カインは弟アベルを誘い出した。二人が野にいたとき、カインは弟アベルに襲いかかって殺した。

4:9 【主】はカインに言われた。「あなたの弟アベルは、どこにいるのか。」カインは言った。「私は知りません。私は弟の番人なのでしょうか。」

4:10 主は言われた。「いったい、あなたは何ということをしたのか。声がする。あなたの弟の血が、その大地からわたしに向かって叫んでいる。」

4:11 今や、あなたはのろわれている。そして、口を開けてあなたの手から弟の血を受けた大地から、あなたは追い出される。

4:12 あなたが耕しても、大地はもはや、あなたのために作物を生じさせない。あなたは地上をさまよい歩くさすらい人となる。」

4:13 カインは【主】に言った。「私の咎は大きすぎて、負いきれません。」

4:14 あなたが、今日、私を大地の面から追い出されたので、私はあなたの御顔を避けて隠れ、地上をさまよい歩くさすらい人となります。私を見つけた人は、だれでも私を殺すでしょう。」

創世記 4

2 後來，她又生了該隱的弟弟亞伯。亞伯是牧羊的，該隱是種地的。

3 過了一些日子，該隱帶來土地的出產，作為供物獻給耶和華；4 至於亞伯，他帶來了自己羊群中最好的頭生羊。耶和華看重了亞伯和他的供物，5 却沒有看重該隱和他的供物。該隱就非常惱火，他的臉沉了下來。

6 耶和華對該隱說：「你為什麼惱火呢？你的臉為什麼沉下來呢—7 如果你做得好，能不蒙悅納嗎？如果你做得不好，罪就伏在門口了；它必戀慕你，而你要管轄它。」

8 該隱與他的弟弟亞伯說話。他們在田野的時候，該隱就起來攻擊他的弟弟亞伯，把他殺了。

9 耶和華對該隱說：「你弟弟亞伯在哪裡呢？」他說：「我不知道。難道我是看守我兄弟的嗎？」

10 耶和華說：「你做了什麼呢？你弟弟的血從地裡發聲向我呼喊。11 地張開了口，從你的手中接受了你弟弟的血，所以你現在要從這地受詛咒：12 你耕耘土地，地卻不再給你效力；你在大地上必成為漂泊、流蕩的人。」

13 該隱對耶和華說：「對我的懲罰太重，超過我所能承擔的。14 看哪，今天你從這地驅逐我，以致我要躲避你的面，在大地上成為漂泊、流蕩的人，任何找到我的人，都會殺我！」